

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	島根県・大田市	2 補助事業の種類	世界文化遺産活性化
3 実施計画の名称	石見銀山活性化事業	【計画の改善時期】 平成 年度	
4 実施計画期間	平成 30 年度 ～ 平成 34 年度		
5 実施計画の概要			
<p>当計画は島根県大田市における「新観光振興計画」、また平成29年に開催された「世界遺産サミット in 石見銀山」の成果などを踏まえながら、世界遺産・石見銀山の保全活用や魅力発信力の強化を目指すものである。</p> <p>大田市では石見銀山の世界遺産登録を機に、それを活かしたまちづくりを進めたが、登録から10年を経て、改めて世界遺産を持つ町としての受け入れ態勢を再構築、あるいはグレードアップしていくべきタイミングを迎えている。</p> <p>そこで、当事業を活用し、まず第一に取り組みたいのは、他の世界遺産に較べやや遅れ気味になっている、外国人観光客誘致を本格化させたい。特に急務なのは、外国語でのパンフレット類の整備である。第二には、次の10年間の大きなテーマは石見銀山の魅力発信力をいかに維持・拡大していくかという点であり、そのための有効な手法のひとつが、世界遺産を持つ近接地域との連携である。観光客は都道府県・地方圏などの行政区画を気にすることなく各地を移動する。その獲得のためには有力地域が連携しまず「エリア」としての競争力をつけることが必要であり、西日本の世界遺産連携（広島・廿日市・萩・大田+姫路）の考え方に立つことによって、大田市単独では対応が難しい首都圏や海外からの誘客、あるいは関西・広島・福岡などでの情報発信が円滑する。具体的には①共同PRの実施、（JR駅デジタルサイネージ広告など）に取組み、今後は②大阪・東京・広島・海外などでのシンポジウムや③各種共同事業（スタンプラリー・現地での他遺産PR・人材交流など）に取り組みたい。また今後は柱の一つとして、交通対策を含めた観光動線や受け入れ体制整備に関する調査の実施についても検討する。</p>			
6 実施体制			
<p>本実施計画の各補助事業に係る指導等は大田市教育委員会石見銀山課・大田市産業振興部観光振興課がおこなう。また補助事業は次の団体が実施する。</p> <p>「世界文化遺産」地域連携会議・石見銀山プロジェクトチーム 会長：船木三紀夫（大田市教育委員会教育長）、和上豊子（「世界文化遺産」地域連携会議メンバー）、安立聖（石見銀山ガイドの会会長）、仲野義文（石見銀山資料館長）、田中純一（（一社）大田市観光協会事務局長）、波多野諭（NPO法人石見銀山協働会議理事長）、飯塚礼司（大田市観光振興課長）、遠藤浩巳（大田市石見銀山課長） 【事務局】松村和典（大田市観光振興課係長）、松田秀規（大田市石見銀山課係長）、井戸智樹（世界文化遺産地域連携会議お世話役）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 0 千円	平成30年度申請額： 3,002 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>①大田市への観光客増とスムーズな世界遺産観光 ②世界遺産地域としての市民の誇りづくり ③市だけではなく関係県（島根・広島・山口・兵庫）、中国運輸局、観光庁、JR西日本などとの連携による、幅広い情報発信へと発展していく可能性がある</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	石見銀山基金を財源とした官民協働による世界遺産の保全活用事業		
事業概要：	石見銀山観光案内所・県外観光情報説明会等でのセールス活動・龍源寺間歩坑内ガイド・観光雑誌への広告掲載、ガイドブック作成（大田市観光振興課関係）		
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
現時点で「歴史文化基本構想」策定に向けた計画の予定はないが、将来、策定・認定に向け取り組みたい。			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	大田市教育委員会石見銀山課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流						
評価指標区分 1 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)						
具体的な指標 1 :	外国人観光客数			関連事業:	外国語パンフレットの整備		
目標値 1 :	【現状値】 平成 28 年度 3944人 (単位) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 6350人 (単位)						
設定根拠 1 :	平成29年3月に策定した「大田指針観光振興計画」で設定。						
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度		
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)		
目標区分 2 :	地域の文化資源を活用した集客・交流						
評価指標区分 2 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)						
具体的な指標 2 :	石見銀山への観光客数			関連事業:	J R 駅での P R		
目標値 2 :	【現状値】 平成 28 年度 313,600 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 485,000 人						
設定根拠 2 :	平成29年3月に策定した「大田指針観光振興計画」で設定。						
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度		
人	人	人	人	人	人		

様式 1-1 別紙②

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	外国語パンフレットの整備	実施団体：	「世界文化遺産」地域連携会議・石見銀山プロジェクトチーム			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度	～	平成 30 年度	
事業概要：	まち歩きマップの作成（大森地区・韓国語、温泉津地区・英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語）					
評価指標区分：	・その他			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	外国人観光客数					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 3,944 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 6,350 人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	
人	人	人	人	人	人	
事業②：	J R 駅での情報発信	実施団体：	「世界文化遺産」地域連携会議・石見銀山プロジェクトチーム			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度	～	平成 30 年度	
事業概要：	・大阪駅などのデジタルサイネージを活用し、石見銀山などの西日本・世界遺産を P R					
評価指標区分：	・その他			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	観光動態を把握するために定期的に行うアンケート調査項目に、「大阪駅で映像の視聴の有無について」問うことで、来訪者数を指標として、効果を検証する。（サンプル数600人のうち2割を関西圏からの来訪者と推定）					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 0 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 60 人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	
人	人	人	人	人	人	